令和6年 飯田市教育委員会8月定例会会議録

令和6年8月23日（金） 午後3時00分開会

【出席委員】

教育長	熊谷 邦千加
教育長職務代理者	北澤 正光
教育委員	三浦 弥生
教育委員	野澤 稔弘
教育委員	林 綾子

【出席職員】

教育次長	秦野 高彦
学校教育課長	福澤 好晃
学校教育専門幹	北澤 孝郎
生涯学習・スポーツ課長	後藤 武志
文化財保護活用課長兼考古博物館長	下平 博行
市公民館副館長	上沼 昭彦
文化会館館長兼新文化会館整備室長	筒井 文彦
中央図書館長	瀧本 明子
美術博物館副館長	槇村 洋介
歴史研究所副所長	牧内 功

日程第1 開 会

○教育長（熊谷邦千加） それでは時間になりましたので、令和6年教育委員会8月定例会を始めます。

日程の第1、「開会」。

これより本日の会議を開きます。

日程第2 会期の決定

○教育長（熊谷邦千加） 日程の第2、「会期の決定」。

会期の日程ですが、この定例会の会期につきましては、本日1日としたいと思いますが、これにご異議ございませんか。

（「異議なし」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） はい。

それでは、本日1日と決定をいたしました。

次の日程に進みます。

日程第3 会議録署名委員の指名

○教育長（熊谷邦千加） 日程の第3、「会議録署名委員の指名」ですが、会議録署名委員として北澤正光教育長職務代理者を指名いたします。

◇教育長職務代理者（北澤正光） はい。

○教育長（熊谷邦千加） よろしく申し上げます。

◇教育長職務代理者（北澤正光） はい。

○教育長（熊谷邦千加） 次の日程に進みます。

日程第4 会議録の承認

○教育長（熊谷邦千加） 日程の第4、「会議録の承認」

7月定例会の会議録につきましては全員にお配りをしておりますけれども、内容につきまして承認を得たいと思いますが、ご異議ございますか。

（「異議なし」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） ご異議なしと認めます。

よって、7月定例会の会議録は承認をいただきました。

では、次の日程に進みます。

日程第5 教育長報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 日程の第5、「教育長報告事項」。

お手元に配布してございますので、その紙をちょっとご覧いただければと思います。

1つは、信州大学の新学部誘致推進協議会というのが新学部の話が持ち上がってから行われていますが、7月25日の木曜日にその会議が行われました。飯伊市町村教育委員会連絡協議会も昨年度途中から入らせていただいて、副会長の一人として私も参加しております。その会議では、昨年度の事業報告と決算報告があり、一番このポイントになったところが組織名称と目的の変更についてでした。要するに名前を変えて目的を変えますよということです。信州大学が新学部を立ち上げるという話がなくなりましたので、名称等を変えていくということです。で、本年度の活動方針、事業計画、予算案が議題となりました。

今後については、信州大学が行う様々な研究、例えばこれは教職大学院も含まれますが、あるいは今度「エス・バード」にくる水の研究もそうです。そうしたものが十分に展開されて、これに伴って地域にもたらされる様々な利益を確実に享受できるように、南信州と信州大学の連携をさらに強めていくと。また、将来の大学院・新学部の設置に期待を持ちながら、この辺についてご意見が出たんですが、「諦めたわけではない」ということでございます。当協議会の目的を「南信州地域と信州大学との連携の推進により産業、環境、教育など様々な分野の振興と充実を図り、地域の発展につなげる」という目的に変更したいと。そして名称も「南信州地域・信州大学連携推進協議会」という名前に変更したいということで認められました。

教育委員会としましても、今、飯田東中の中にあります教職員大学院南信州サテライトキャンパスとの連携を大事にしていきたいなというふうに考えておるところです。

それから2つ目は、皆さんもご覧いただいたと思うんですが、人形劇フェスタ 2024 人形劇です。オープニングセレモニーでは、さすがプロだなんていう素晴らしいものを見せていただきました。また、今年から、主会場が中央公園からムトスぷらざへ移動しました。ムトスぷらざでは、ワークショップとか人形劇の鑑賞、その合間をぬってミニコンサートなどをやっていただいて、涼しくゆったりと快適な環境の中で楽しんでいただけたかなというように思いました。

また、小学生・中学生の人形劇は、手作り感があったり脚本が子どもたちによって工夫

されていたり、それを地域の皆さんや保護者の皆さんが温かい目で見守っていただいたりして、これがやっぱり大事ななあというふうにも思いました。

外会場としては、ほとんどなかったんですけども、文化会館の前で朝7時くらいですとか6時半とか「アーリーモーニング」という名前を付けた公演がありました。朝早くからそんなに観客の皆さんが来ないんじゃないかと思ったら、結構たくさんの方が見えていて、途中から日が出てきたら朝でも暑いつつという状況ではありましたが、一緒に観客の皆さんと演者の皆さんが楽しんでいる様子がありました。

それから3つ目は、三遠南信中学生の交流会が一泊二日で、今回は飯田市が当番ということで行われました。

そこにあるような人数で阿南少年自然の家に泊まって、2日目は竜峡中学校を会場にして行われました。

内容は、人形劇を鑑賞してリンゴ並木や水引体験、飯田市美術博物館を見学して、翌日は竜峡中学校で意見交換。いずれも体験してもらったことが飯田市の特徴のあるものばかりで、そういう中で子どもたちが他地区との共通点とか、逆に違いを知るっていうことで、非常に地元の良さや課題が明確になるなあということを感じました。

また、裏面に行きますが、その翌日から今度は伊勢市との小学生交流会っていうのが8・9日と行われて、これも飯田市が今回当番ということで、飯田市は座光寺小、松尾小、下久堅小、竜丘小、上郷小、上村小から小規模校は2名、それ以外は4名ずつで参加し、伊勢市は28名という参加でありましたけれども、ここも水引体験、それから今年から出前焼肉っていうのを生涯学習課のほうで企画していただいて、久米川温泉で宿泊して、天竜峡のそらさんぽを散策して、三和観光農園でアップルパイづくりをしたところでありました。大変好評で、それぞれが別れを惜んでいるようなそんな関係性もできた体験だったなあというふうに思いました。

あと5つ目は、この間、南海トラフ大地震臨時情報・巨大地震注意が発表され、学校教育班、生涯学習班がそれぞれ2班に渡って待機をしていただいたと、そんなことがございましたので、またご承知おきいただければと思います。

私の報告事項は以上でございますが、何かご質問等ございましたら。

よろしいでしょうか。

(「特にございません」との声あり)

○教育長(熊谷邦千加) ありがとうございます。

では、次の日程に進みます。

日程第6 議案審議（1件）

○教育長（熊谷邦千加） 日程の第6、「議案審議」。

本日は議案審議1件でございます。

議案第53号 令和6年度飯田市就学援助費支給対象者（要保護及び準要保護児童生徒援助費補助金関係）の認定について

○教育長（熊谷邦千加） 最初に、議案第53号、「令和6年度飯田市就学援助費支給対象者（要保護及び準要保護児童生徒援助費補助金関係）の認定について」を議題とします。

議案の説明を求めます。

福澤学校教育課長。

◎学校教育課長（福澤好晃） それでは、議案第53号、令和6年度飯田市就学援助費支給対象者の認定について、4ページをお願いいたします。

認定対象者につきましては、別紙でご用意をさせていただいておりますとおりでございます。それぞれ記載いたしました認定要件にて、認定をいただきますようご提案を申し上げます。

よろしくをお願いいたします。

○教育長（熊谷邦千加） この件につきまして、質疑はございませんか。

（「ありません」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） 質疑なしと認めます。

ご異議ございませんか。

（「異議なし」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） ご異議なしと認めます。

それでは議案第53号について採決をいたします。

本案を原案のとおり認定することについて、ご異議ございませんか。

（「異議なし」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） 認定をいただきました。ありがとうございます。

では、次の日程に進みます。

日程第7 協議事項

○教育長（熊谷邦千加） 日程の第7「協議事項」。

(1) 令和6年度小学校運動会・中学校文化祭等の参列について

○教育長（熊谷邦千加） 「令和6年度小学校運動会・中学校文化祭等の参列について」を議題といたします。

議題の説明を求めます。

北澤学校教育専門幹。

◎学校教育専門幹（北澤孝郎） では、よろしくお願ひいたします。

お手元の8月教育委員会定例会資料No.1というホッチキス止めのものをご覧いただきたいと思います。

今年度の小学校の運動会、そして中学校の文化祭への参列をいただきたいという希望を取りましたところ、このように希望がありまして、そこに教育委員会のほうから参列予定ということで割り振りをさせていただきました。

日程について見ていただきまして、ご都合等お伺ひしてこの後、再調整をしたいと思っております。

また、教育委員会の挨拶につきましては、実際挨拶が必要というところが山本小学校 10月5日土曜日のところだけでありましたので、ページをめくっていただいて2ページ・3ページに周年記念式典祝辞案ということでこのようなものを考えさせていただきました。お許しいただければ、ここの山本小学校に応じたものをつくらせていただいて、一応、北澤正光教育長職務代理者に行っていただければと思っておりますが、相談をさせていただいて整えたいと思っております。

以上です。どうぞよろしくお願ひいたします。

○教育長（熊谷邦千加） はい、私の名前が1個しかなくて申し訳ありません。10月5日は菱田春草生誕150周年の記念の式典と重なってしまっていて、また9月27日は議会の予算決算委員会が重なっております、教育委員さん等に謹んでお願ひをしたいということで、お手数をおかけします。

特に後ろの文面等見ていただきたいのも見ていただいて、何かお気づきの点があればと思います。

じゃあ、質疑などのご発言がございますか。

（発言する者なし）

○教育長（熊谷邦千加） 祝辞の案はあくまでも案ですので、必要に応じて替えていただいいていかと思っております。

よろしいでしょうか。

(「はい」との声あり)

○教育長(熊谷邦千加) それでは、この議題の協議につきましては以上といたします。

次の議題に移ります。

(2) 令和6年度小学校及び中学校教育課程研究協議会の出席者について

○教育長(熊谷邦千加) 「令和6年度小学校及び中学校教育課程研究協議会の出席者について」を議題といたします。

議題の説明を求めます。

北澤学校教育専門幹。

◎学校教育専門幹(北澤孝郎) では、ただいまの資料に続きまして4ページへお進みいただければと思います。令和6年度小学校及び中学校教育課程研究協議会の出席者についてです。

前回の定例教委で4ページのところを示させていただきました。その後、私、調整をさせていただきながらいたんですが、皆様のご都合、それぞれよろしいですかね。

はい、これでお願いできればと思います。

そして5ページなんですが、そのときにご挨拶をいただくことになっているんですけども、その主催者挨拶の案をつくりましたので、見ていただきましてご意見等をいただければと思っております。

なお、下のほう、空欄ありますが、学校名であったり指導主事名はそれぞれ記入したものを改めてお送りをさせていただいて、当日ご挨拶をお願いしたいと考えております。

6ページ以降は、それぞれの各会場の日程であります。各学校から指導案を含め、当日の案内が一週間ほど前に教育委員会に送られてきますので、併せてお送りをいたします。そちらを見て確認をしていただければと思っております。

最後になりますが15ページ、教育長から話がありました小中学校教育課程研究委員会のあり方についてということで、県教育委員会より7月19日付けで書類が出ております。

教育長が説明いただきましたとおりであります。今年度は予定どおり行うんですけども、来年度につきましては、令和8年度以降の運営面や実施内容について、全県的に議論する年度としたいということでもあります。また、必要に応じてご意見を求められるということもございますので、この15ページのところ、一度目を通していただければと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

以上でございます。

○教育長（熊谷邦千加） それでは、今の説明につきまして、質疑がございましたらお出しただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

まず、ご都合のほうはよろしいでしょうか。

（「はい」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） 挨拶文について何かご意見がありましたらいかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

（「はい」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） また、言いにくいところは修正していただいても構いませんので、こういう趣旨の内容までつながればいいかなと思います。

ありがとうございました。

それでは、次の議題に移ります。

（3）第2次教育振興基本計画中期の振り返りについて

○教育長（熊谷邦千加） 「第2次教育振興基本計画中期の振り返りについて」。

後藤生涯学習・スポーツ課長。

◎生涯学習・スポーツ課長（後藤武志） それではお手元にお配りさせていただきました本日の資料No.3の資料をご覧くださいと思います。教育振興基本計画中期の取組の振り返りでございまして、先月の定例教育委員会の場で配らせていただいたものに、ちょっとだけ手を加えさせていただいているんですけれども、ほぼ内容につきましては同じものがございます。

本日、今日のこの定例教育委員会の場で、後期の取組、後期の計画を令和7年度からスタートするわけですけれども、その計画を今年度、教育委員会事務局のほうでつくらせていただくことになっておりますが、まずはその中期の振り返りを今日資料として付けさせていただきましたので、教育委員の皆様方から、中期の振り返りにつきましてご意見をいただきたいのと、あとこの振り返りを踏まえて後期にどういった取組を力を入れてやっていったらいいのかとか、その取組がより進むようにどのようなやり方でその取組の評価を行っていったらいいのかとか、そういったことにつきまして、教育委員の皆様方から自由闊達なご意見を頂戴できればというふうに思っておりますので、ご意見をお寄せいただきたいというふうに思います。

私からは以上です。

○教育長（熊谷邦千加） この件につきまして、質疑やご発言がございましたらいかがでしょう

か。

野澤教育委員。

◇教育委員（野澤稔弘） 先月いただいた資料をちょっと読ませていただいて、いろいろ質問等あるんですけども、まとめてお話したほうがいいですか。結構な量なので。

一番最初の「ねらい」のところだけまず。

この「ねらい」の文章を読ませていただいた中で、まず「豊かな心」、これは一人一人価値観が違うのかなと思ったんですが、どういうふうに読み取ればいいのかというのの一つです。

もう一つは「リニア時代」、非常に曖昧な言葉で、具体的にどんな時代を想定されていて、それに対して教育というのは何が必要なかっていうのが全く不明瞭になっているので、「いや、こういう時代だからこそ、こういうことをやらなきゃいけないんだ」っていうのは、なんとなく読み取れないかなと思っています。

この「ねらい」の中ではこの2点、どういうふうにやっていったらいいのか、考えた方がいいのかというのは、ちょっと私なりに疑問点としてありました。

○教育長（熊谷邦千加） また、じゃあ大きなところを言っていただいて、細かいところはいただいてもよろしいですか。

◇教育委員（野澤稔弘） はい。

○教育長（熊谷邦千加） 今の点は何か。

秦野教育次長。

◎教育次長（秦野高彦） よろしくお願ひします。

今の点でございますけれども、「豊かな心」まさにそれぞれだと思います。私どもの当初の中期のときには、いろんな様々な皆さんの個性、今は個別最適ってようなお話もありますけれども、これは一つのイメージを指しているものではなくて、その人それぞれにどう豊かな心を育ていけるかというような、そういう思いを持って「ねらい」は中期のときに策定させていただいております。

リニア時代についてということですが、これは野澤委員がおっしゃられたとおりでかなり議論をしました。「リニア時代って何なんだ」っていうようなことは、当時、策定するときに議論をしたんですけども、一つはこの高速交通網が発達してくる中で、中央自動車道が開通したときと同じぐらいのインパクトを、インパクトといいますか、衝撃が起こること。そういう部分について、リニア時代というふうに象徴的に考えてみようというところがあるが、この中期を策定したときの考え方のうちのの一つです。

実際、今までのその時間の流れ、移動の時間の流れから、1時間以内とかっていうような流れになるときに、我々のこの地域はどうあるべきかというようなことも含めて、このリニアっていうのは大きな出来事でありまして、それができた後の時代っていうのは、この地域のことをしっかり学びながら、しっかり自分の自己を確立していくということをしていかないと、要は野澤委員もおっしゃられたのですが、どんどん外へ流れてしまう。そういうような危機感も含めて、ここは「リニア時代」というふうに読み解く、そういう議論を経まして、ここは「リニア時代」というふうに設定をさせていただいたという経過がございます。

○教育長（熊谷邦千加） さらに加えてご質問があればどうですか。

野澤委員。

◇教育委員（野澤稔弘） その部分が、このいろんな取組のどこにどうつながっていくのかっていうのがいまいち見えていかないというのが私の感覚です。

それから、ちょっと先ほど申し上げなかったんですけど、お互いを認め合える人間関係づくりという、ここなんですけれども、あえて私はここはお互いの違いを認め合えるっていうふうになっていかないといけないのかな、これからは、というふうに思っているんですが、その辺りについてももしご意見があれば教えてください。

○教育長（熊谷邦千加） 秦野次長。

◎教育次長（秦野高彦） この部分も、今、表現としましては「お互いを認め合い」という形にはなっておりますけれども、野澤委員のおっしゃられたとおりでございまして、インクルーシブっていう部分も含まれてきますので、お互いの違いを認め合ってというようなことを意図としていることは確かであります。

ただ、この文章の中からそれを読み取れませんので、この後期の3年間で取り組んでいく、そういうような部分にはしっかり入れていく必要があるかなというふうには、今のご意見を伺いながら考えています。

○教育長（熊谷邦千加） 言い放しの場面も当然あってもいいかなと、全部お答えして。

◇教育委員（野澤稔弘） きりがありません。

○教育長（熊谷邦千加） またそれを事務局が受け止めて、検討してください。

◇教育委員（野澤稔弘） すみません。

○教育長（熊谷邦千加） ぜひ答えていただきたいという場合にはおっしゃってください。

では、北澤職務代理。

◇教育長職務代理者（北澤正光） 言い放しでいいということですので、何点かあるのですが、

前にいただいた資料と今日の資料とページがずれているので、とりあえず今日いただいた資料でいくと2ページに当たる部分が主になります。その後のほうに書いていただいている図書館のこととか以下ずっと続くところの書きぶりと、この2ページの辺のところ、具体的な事例の挙げ方など、抽象的だなというふうに思いながら読みました。「ムトスの学び」のことを目標に掲げているのですけれど、2ページの取組の成果のところ「ムトスの学び」につながるような働きかけとか取組がほとんどない書きぶりが気になりました。

例えば主な成果のところの最初の行で、「中学校区独自の教育課程編成の重要性」という、大きな言葉の括りになっているのですが、その辺をもうすこし具体的な内容が分かる、例えば、総合的な学習の時間や探求への取組とかというようなことを、学校のあり方審議会のところで学園構想の目玉にしているような取組のこととの関わりがとつてもあることではないかと思っています。

それからさっき北澤専門幹からの全国学テの分析の速報版のこともあった中で、どうしても落とせないのは日常的な授業改善への意識といった、極めて素朴なことですが、そういう部分はどうしても落とすてはいけないのではないかと思いながら読ませていただいたところです。

それから2ページのところの下の方、特に不登校児童生徒云々のところで、自己肯定感と不登校児童生徒のことだけがむやみにつながっていて、主な成果のところでも「自己肯定感を高めることにつながりました」となっている。不登校の要因が、自己肯定感が低ければ不登校で、自己肯定が高ければ不登校にならないかというようなふうにしき受け止められない中身になっているかなと思って、ちょっと違和感を持ちながら読みました。

あとページ全部言っていくときりがなくいろいろ出てきてしまう。とりあえずそれで一旦終わります。

○教育長（熊谷邦千加） これは事務局としてはどうする。全部言ってもらったほうがいいか、書き込んでもらったものをもらう。

◎教育次長（秦野高彦） そうですね。書き込んでいただいたものをもらって、参考にさせていただいたほうが私どもとしては。

◇教育長職務代理者（北澤正光） 私たちもそのほうが。ちょっと読みにくいようなことをいっぱい書いてありますけれど、それで受け止めていただければそのほうが効率的かと。

◎教育次長（秦野高彦） そうですね。整理させていただく中で、私のほうで整理すぐできてお答えできることもありますし、今後検討しなきゃいけないことも出てくるとは思いますので。

○教育長（熊谷邦千加） 逆に疑問だとか、答えてもらったほうがいい疑問だとか、ちょっとこれ
れが認識としてみんなで共有して考えたほうがいいことがあればお出しいただいてと思
いますが、いかがでしょうか。

◎教育次長（秦野高彦） 教育長、すみません。ひとつ前提をお願いしたいと思います。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

◎教育次長（秦野高彦） すみません、申し訳ございません。

今、北澤職務代理からお話がありました「ムトスの学び」の件なのですけれども、表現
を修正、「ねらい」のところの表現を修正させていただいてあります。

全体的に「ムトスの学び」ということで、令和5年度から取り組んできたということで、
その「ねらい」に事務局としてはちょっと入れさせていただいたのですけれども、話し合
いで元々中期の取組の「ねらい」として挙げたときに「ムトスの学び」という形でつく
っていないということもありましたので、読んでなかったというわけでは、認識してい
なかったというわけではないのですけれども、基本計画の中期の取組の「ねらい」をその
ままここへ入れさせていただいたということがあります。

なので、この「ねらい」の中には令和5年度から始まった「ムトスの学び」のことにつ
いては除かせていただいておりますし、今、アクション案でも記述にどういふふうに入れ
ていくかということは課題といたしますが、令和5年度から行っているということもありま
すのでありますけれども、「ねらい」の中に「ムトスの学び」がなくてっていうところはそ
ういう前提があるということでご理解をいただきたいと思います。

「ねらい」のところは、4年前に設定したものを差し替えたといいますか、替えさせて
いただいたところになっておりますので。

すみませんでした。

○教育長（熊谷邦千加） じゃあ、林委員さん。

◇教育委員（林 綾子） すみません。私はそんな全部に書き込むほどできなかったの
で、ちょっと一つだけ確認、確認というか少し今、次長から「インクルーシブ教育」という言葉が
出ましたので、おそらくこの中に入っているんだろうなあと思ったんですが、一読してそ
ういった視点っていうのがちょっとあまり感じられなかった、私の中ではそういうふう
に感じたというちょっと意見ですが。

全体の中に読み取ればいいのだと思うんですけれども、これは飯田市のことなので、
飯田養護学校とかとの関係っていうのは全然ここには入らないということではないん
でしょ
うかね。

○教育長（熊谷邦千加） 秦野教育次長。

◎教育次長（秦野高彦） 関係性としては出てくるとは思うのですが、実際はここに書かれているのは飯田市として何をしたかという、何を目指したか、何をしたかという形の表現になっているんです。

◇教育委員（林 綾子） はい、承知しました。

特別支援教育という観点で、障がいのある生徒さんにも合理的配慮みたいなことの話っていうのも多分盛り込まれているというふうに考えたらいいのかなとは思いますが、そのインクルーシブみたいなことっていうのはあまり表現としては、今、お使いにならないのかなというところだけ、私はちょっと感じました。

それともう一点、感じたことだけであれですが、評価の指標みたいなことでこの取組を振り返ったときに、評価の指標として9ページにも令和2年から令和5年までのところで挙げていただいているんですけども、なんというか、なかなかちょっとこの数字で何か評価するっていうのがとても難しいなど。それは率直にすみません、感想だけなんですけれども、こういった形でしかおそらく評価のしようがないということだということはよく承知しているんですが、さっきの学力調査ともそうなんです、この微妙な数値の差というところで、やはり例えば不登校児童の生徒在籍率とかっていうことを見ていくと、どうしても評価の仕方が難しいなあというふうに、すみません、これはただの感想で申し訳ありませんが、そういうふうに感じました。

何か数値以外で評価というのはおそらく難しいんだと思うんですけども、何かいい評価の仕方っていうのがあるといいのになど。ほかの部分もそうですけど、結局、目標の数字があって、それに対するこう実績があつての評価ではあるんですが、この数字でいいのかなっていうのが具体的にどれっていうことではないですけど、見てて、これを評価の数字に使うのが適切かなというのは、常に見直していったほうがいいのかなというふうに感想としてですが感じました。

以上です。

特にお答えは大丈夫です。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

事務局で言いたいことがあれば言っていただいで。

◇教育委員（林 綾子） すみません、言ってください。

◎教育次長（秦野高彦） 非常に重要な点を今、提供していただいで、特に評価の部分で教育をどう評価するかっていう非常に難しいことだと思っています。これと並行して現在、三浦

委員も関わっていただいておりますけれども、いいだ未来デザインの後期計画を策定しているのですが、それにも数字指標っていうものを求められていて、数字指標がその教育で表せられるかどうかっていうのは、我々も非常に悩んでいるところであります。ここは国も県もそうはいつでもそういうなんですか、いわゆる評価指標っていう数字で持っているところがあります。

できるかできないのはちょっと分からないのですが、そうではない評価の方法ができないかっていうようなことを、後期では今、模索をしようとしているのですが、ぜひ何かいいアイデアがありましたらいただけるとありがたいかなというふうには思っています。

私どももこの前、東京大学の牧野教授のお話などを伺いながら、実際の教育の評価の仕方、振り返りの仕方っていうのを考えなきゃいけないなあというふうに深くは思っております。

○教育長（熊谷邦千加） 課題は共有されているということで、先ほどから全国学力状況調査のことを野澤教育委員さんが言われましたけれども、それは見える一つの指標であって、教育の部分には見えない、見えにくいって言ったほうがいいのか、そういう思いだとか、心のありようだとか、そういうものもどう評価するかということ、非常に求められるには求められているけど、現実的に学者さんも誰もそれについて、皆が納得するような方向性は出てないってということもあります。そういう視点をもって評価していかないと、数値オンリーだけで全てを評価しようとする「それはおかしいだろう」ということになるのかなと思います。

ありがとうございます。

さらにございますか。

野澤委員さん。

◇教育委員（野澤稔弘） ちょっと概念的な部分なので、ここだけはお聞きしておきたいんですけども、教育振興基本計画の今日いただいた資料でいうと 23 ページの中ほどにあります「トップアスリートの指導やプレーに触れる機会、スポーツ指導者の育成などを通じて競技スポーツ人口を拡大し、競技志向を高めます。また、地域でトップアスリートを育てることができる取組を目指します。」というのが、これは教育振興なのかなあと疑問に思っています。

競技志向を高めるってそれでいいんだろうかっていうことと、トップアスリートを何人輩出したのっていうのが今の話じゃないですけど、インデックスとなってしまうっていう

のは「うーん」何か本末転倒のような気がしてならないんですけど、彼らのトップアスリートの考え方や日々の取組を通じて自分の日々の生活に生かすとかいうのであれば、まだ飲み込めるんですけど、それじゃなくても競技志向が高くなってしまって、部活動においてどうしようってやっているのに、そこでまた競技志向を高めますっていうのは何かおかしいなあと思いつつながらこれを読んでいたんですが、その辺りに関してはどんなご意見でしょうか。

○教育長（熊谷邦千加） 考え方につきまして。

後藤生涯学習・スポーツ課長。

◎生涯学習・スポーツ課長（後藤武志） ご指摘をいただきまして、非常にありがとうございます。

野澤委員からはそういったご指摘をいただきましたけれども、私どもこの黒ダイヤが付いているものを戦略として位置づけて取り組んできたんですけど、決してその競技志向を高めてトップアスリートを育てていくということが相反するようにはちょっと理解をしておらなかったものですから、そういうご意見もあるんだなあと思いつつながら今、聞かせていただいたところでございます。

いずれにしても、今、スポーツ自体に関心を持ったりとか、取り組んだりとか、あと支えるってことをしたりとか、そういった部分での意識を持った方っていうのが低下傾向であるっていうのは市民意識調査の中でも出てきているところでございますので、トップアスリートの部分はまた置いておいていただきまして、少しでも関心を持っていただける方々を増やしていきたいという方向性で戦略は考えてきておりますので、その考え方はぜひ後期計画のほうにも生かしていきたいなというふうには考えております。

ご指摘の点は、ちょっと十分注意というか留意しながら次の後期計画につなげてまいりたいと思っております。

○教育長（熊谷邦千加） 野澤教育委員さん。

◇教育委員（野澤稔弘） 例えば一番分かりやすい大谷翔平さんの例なんかだと、彼は本当に一流になりたいってという目的意識があったんですよね。だからいろんな意味でいいと思うんですけど、何もない目的意識が、そこが問題なんだって私は思っているんですね。

なので、いろんな競技だろうがなんだろうが、勉強だろうとなんでもいいんですけど、そこをきちんと植え付けるなり、自分で気づかせるなりした上で、何かしていかないとけないような気がするんですけど、それがないうちにとにかくメニューはたくさん豊富に揃えようとしちゃうんですよね。我々大人サイドは。でも、子どもが「なんかやっぱり俺

ってこういう人間なんだな」とか、「こんなことで社会貢献できたら面白いだろうな」とかっていうのが何かのきっかけで気づいた上で、そういうメニューがたくさんあるところに行かないと、教育ってできないような気がするんですよね。なんかメニューばかりたくさん揃えて「こんなのがあるよ」「こんなのがある」って肝心の子どもたちは「俺の人生ってどうなのかなあ」みたいな感じでやっちゃっているような気がしてならなくて、そこをもっとうまく導いてあげることが必要なんじゃないかなと思うんですね。

こういうトップアスリートを呼んでやるのが悪いとは言わないんですけども、そういう目的意識を持っている子どもたちにとっては非常にプラスかもしれないけど、何も持っていない子にこのメニューを見せても全く意味がなくて、だからそういう意味でいうとこの地域からトップアスリートを何人出ましたなんていう指標は全くもって意味がないような気がしてならないって私は考えてしまうんですけど、どっちかっていうとそんな感じがします。

自分の会社のことを申し上げてあれなんですけど、やっぱり年に一回、必ず今年はどういう目標をもって仕事に取り組むかとか目的、君は何をやるかとかというのをきちんと見て、それで半年に一回それを見直して、もう半年間頑張っていこうねってやって、やっていく上でじゃあ勉強していくわけですよね。でも、それがなくていきなり「おまえこれ勉強しろ」「あれ勉強しろよ」「この技能を身につけろよ」「この技術を身につけろよ」と言ってもやらないんですよね。

やっぱりその差が自分たちがやり始めて分かってきたってところなので、何かそういうところがあるのかと感じています。

○教育長（熊谷邦千加） また、ぜひ後期の計画の中にも取り入れたい考え方かなと思います。

ほかよろしいですか。

三浦委員さんお願いします。

◇教育委員（三浦弥生） 今の 23 ページの今の内容、そう言われてみて改めて読ませていただくと、この辺あの、「地域でトップアスリートを育てる」というトップアスリートっていうこの定義といいますかイメージとしては、その下の戦略のところの 2 番目の点のところにも「全国大会において入賞できる選手を輩出したい」、取組も一番最後が「各種競技団体の選手育成の支援を行った」。で、主な成果として一番下が「国体で全国優勝する選手や中学校体育連盟全国大会で入賞者を輩出することができた」ということで、トップアスリートの定義はあくまでもそういった全国大会の優勝や中学校体育連盟全国大会での入賞者っていうものがトップアスリートっていう、そういった考え方だったのかなと、ちょっとそん

なふうにも読ませていただいて、なんとなくイメージすることのトップアスリートというよりは、こういったところでそういった子どもたちが活躍できる大会で入賞するっていうことを評価にしておいて、そういったことではできたっていう、そういった形の考え方だったんだなっていう、なんとなくそんなふうに読ませていただいて。

で、野澤委員の言われていたように、そういった実際スポーツで教育振興ということで、教育的に子どもたちにスポーツをやらせるっていうことだと、そういった後々生活を行っていく上での精神もきちんと鍛えられるようになっていうところを、本当に必要なんだなっていうところを確かに感じました。

そうなってくると、またそういったものをどんなふうに主な成果として評価していくのかなっていう評価の視点っていうものは、また、ちょっと結構難しくなってくるのかなと。こういった入賞者が「出た」・「出ない」っていう数値っていうものもやっぱり大切ですけども、そうじゃないものもまた評価していくと、また結構難しいものになってくるのかなって思いますが、でも、そういった視点というものも大切なのかなというふうに思いました。

すみません。議論を聞いていての感想みたいになっちゃいました。そんなところを感じました。

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございました。

また、お気づきの点は、時間もありません。申し訳ありません。書いたものをいただいたような形でよろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございました。

では次のほうにまいります。

（４）第１回総合教育会議について

○教育長（熊谷邦千加） 「第１回総合教育会議について」を議題といたします。

議題の説明を求めます。

後藤生涯学習・スポーツ課長。

◎生涯学習・スポーツ課長（後藤武志） それではお手元の資料No.4をご覧ください。

9月9日月曜日でございますが、市長と教育委員の皆様方との懇談の場でございます総合教育会議の開催を予定しているところでございます。

今年度1回目の総合教育会議でございますけれども、この資料No.4にありますとおり、これ市長部局のほうから提案をいただいたものになりまして、こういった内容で、こうい

ったスケジュール感で行いたいということで、今日、定例の教育委員会にお示しをさせていただくものでございます。

今回の総合教育会議でございますけれども、テーマといたしまして、『『ムトスの学び』が目指す学びの姿とは』ということで、先ほどもご説明させていただきましたけれども、教育振興基本計画の後期の策定を今年度行うということ。それから現在も進めておりますいいだ未来デザインの2028の後期計画も併せて今、策定を進めているということで、この「ムトスの学び」というものをテーマとして意見交換をさせていただきたいと、こういうふうに予定しております。

当日の進行でございますけれども、前段に事務局のほうからムトスの学びの考え方や特徴的な学びについてご説明をさせていただいた後、皆様方のほうと市長のほうで懇談をしていただくと、そういった流れで進めていければというふうに思っております。

また、一応前段と第1クール、第2クールというふうに一応この計画、提案のほうでは分かれておりますけれども、その辺についても進め方について皆様方のほうからご意見をいただければ、そのご意見のほうを市長部局のほうに伝えさせていただきますして、当日の進行に反映させていきたいというふうに考えております。

ということで、以上とさせていただきます。

お願いいたします。

○教育長（熊谷邦千加） この件につきまして、質疑などご発言がございましたらお願いいたします。特にございませんか。

（「ありません」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） よろしいでしょうか。

（「はい」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） 後藤生涯学習・スポーツ課長。

◎生涯学習・スポーツ課長（後藤武志） 大変僭越ではありますが、事務局の私の個人の意見といたしましては、まあ前段があって第1クール・第2クールってということでちょっと細切れ感がちょっとあるのと、できればもう少し皆様方にスムーズにしっかりとお話をしていただけるような進行のほうがいいのかなってというふうに思っておりますので、ちょっと大分一人3分、3分、3分っていうと、大分厳しく書いてあるものですから、もうちょっとそこら辺、もう少し緩やかなふうにできればと思っておりますが、ご意見いただければ大変ありがたいなというふうに思います。

○教育長（熊谷邦千加） 小刻みな計画を立てて。

◇教育委員（野澤稔弘） ただの目安かなと思っていましたけど。

◇教育長職務代理者（北澤正光） 授業もそうですけど、あんまりの細かい時間刻みでつくと失敗するんです。

○教育長（熊谷邦千加） そこら辺はちょっと企画のほうへそういうご意見があったということで、お伝えをしていただければと。私どももそこを心配しております。

今までもそういう会議に行くと、何か語りたことをしっかり語っていただくほうが深まったり共有できたりするかなあというところ。毎回時間が足りないくらいの感じで、ある意味、形式的になっちゃうと深まっていけない可能性もあるかなというところを思います。

もう少しゆったりとした交流をというご意見をいただきましたが、そんな方向でいいですか。

どうぞ、林委員。

◇教育委員（林 綾子） 資料説明をいただく時間がそれぞれ取ってあるのですが、これはこの資料というのは事前にいただけるというふうに考えたらいいんでしょうか。

○教育長（熊谷邦千加） また後で。

◇教育委員（林 綾子） また後ですみません。

○教育長（熊谷邦千加） その時間についてはいかがですか。全部でトータル 30 分以上もありませんが。

◇教育委員（林 綾子） 前段のところの6分というのはこれは6分間で何をお話しすればいいかなと感じました。前段の考え方についてのところがちょっといかにも窮屈かなと思いましたが、ここはまとめてもいいかなと。ちょっと私も中身を見てですけど。

○教育長（熊谷邦千加） そういうご意見いただければ。

◇教育委員（野澤稔弘） おそらく今、林さんおっしゃっているのは、全体1時間半の中で資料説明35分と25分ですよね。足すと1時間なんだよ。なので、おそらく前もって資料を読ませていただいて、その部分を端折ってもらって、逆転させるくらいの感じでもいいのかなって感じしますよね。

◇教育委員（林 綾子） そうですね。事前に確認させていただいた上で、説明が非常に短くてもいいのかなと私も感じます。

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございます。

大事なポイントだと思います。

今のようなことをちょっとまたこれ企画のほうで立てていただいて、こちらにいただい

た意見なので、今のようなことをまとめて企画に教育委員の皆さんが申し上げてください。

それでよろしいですかね。

◇教育委員（林 綾子） はい。

○教育長（熊谷邦千加） ほかに何かございますか。

よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございます。

じゃあ、そんな進め方については、今お出しいただいたご意見を基にまた企画のほうで計画いただきたいというふうに思います。

それでは協議事項は以上でございますので、次は次の日程に進みます。

日程第8 陳情審議

○教育長（熊谷邦千加） 日程の第8、「陳情審議」。本日は、陳情審議はございません。

次の日程に進みます。

日程第9 その他

○教育長（熊谷邦千加） 日程第9、「その他」。

（1）教育委員報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 「教育委員報告事項」。

それでは、教育委員の皆様方からご報告がございましたらお願いいたします。

林教育委員さん。

◇教育委員（林 綾子） 8月4日ですけれども、いい大人形劇フェスタのほうに個人的に観劇をしに行きました。最後の日の「エルマーとりゅう」という人形劇で、プロの劇団がやっていたので、歌があったり本当に舞台装置も大変立派で、普段身近で見ている人形劇とはまた違う良さというか、フェスタならではのものを見せていただいたなと感じております。

また、最終日で題材も園で今読み聞かせをしてくれているエルマーのものでしたので、演技を見てしっかり楽しんでおりました。また、たくさんの方が入って盛り上がっている様子であったなというふうに感じました。

普段の身近な中学生とかがやる人形劇の良さもありつつ、またプロの方の人形劇の良さ

も味わせていただけるっていうのがやっぱりこのフェスタの良さだなというふうに改めて感じました。

それから2点目ですけれども、前回ご案内いただきました飯田市の平和祈念館の特別展を、本当はすいとも食べたかったんですが、残念ながらちょっと仕事で行けませんでしたので、8月10日の日に平和祈念館の常設展示とそれから特別展のほうを両方拝見しました。

特にやはり特別展のほうの「銃後の女性と子どもの暮らし」というところがとても心に残りまして、ドラマとかいろんな本とかでは、慰問袋とか慰問文っていうのを聞いたこともありましたけれども、実際の子どもたちが書いた慰問文っていうのが展示されておりまして、とても興味を持って見させていただきました。

そういうことがあったっていうのは知っていましたが、本当にこういう飯田っていう日本の中でもそんなに大きな街でもなくても、もう本当に日本全国津々浦々でこういうことを、みんながやっていたということがちょっと衝撃というか、当然のように、戦争にみんなが巻き込まれていたんだっていうことを大変感じさせていただいて、その当時の成長期の子どもたちにどういった影響を与えたんだろうなあということは非常に考えさせられました。

一つちょっと残念に思ったのは、より多くの方に見ていただきたいなあと思うんですが、残念ながらあまり賑わっているというほどではなくて、一応、中学生と高校生の子どもを連れていきましたが、大変珍しがられまして、「初めて高校生見に来てくれた」というふうにおっしゃっていました。平和祈念館はきっと学校単位で見てくださっている学校もあるかと思いますが、こういった特別展示でしか出てきてないようなものも、何か多くの方に見てもらえる機会があるといいなというふうに感じました。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） ありがとうございます。

じゃあ、報告を先に全部終えてからにしたいと思います。何かご質問ある場合はそうしたいと思いますが、さらにいかがでしょうか。

北澤職務代理。

◇教育長職務代理者（北澤正光） 時間もあるので手短かに報告します。

今の人形劇つながりのところで、教育長からもありましたけれど、今月1日のフェスタのオープニングセレモニー、それから4日のお別れ会と両方出させてもらいました。オープニングセレモニーのとき、偶然横に座った方が神奈川県から4時間かけて来たという方

でした。まだ生まれたばかり4月に生まれたという赤ちゃんも連れながら、家族みんな
で来たという。「とてもはハマっているんです」っていう、そんなお言葉を言われながら、
県外から4時間もかけて来ていただいている方もいる。それから知り合いの方の娘さんは、
中学生ですけど、学校では中間教室を利用しているお子さんですが、本人の希望でボラ
ンティアに手を挙げて、人形劇場でボランティア参加していたというような中学生がおり、
東野のまちづくりの会長さんとちょうどその日の午後お会いしたのですが、大学生が20人
ほど公民館で合宿をされて人形の公演をされるので「これから布団の準備をするのが大変
だ」と言って、地域で受け入れ、地域で支えてくださっている。そういう方たちもいて成
り立っているのだなということに感謝の思いが湧きました。

そんなことで猛暑の4日間でしたけれども、これからも会場の設定とかを考えながら、
ぜひ続いてほしい催しだなというふうに思っています。

もう1点は、8月2日に、現職の校長と退職した校長との懇談会というのに出させても
らいました。面白い会で、小中高全て混ざっての会なのです。その中で、小中のことはと
もかく高校の現職の校長先生から、総合教育会議のことにもつながる情報かなと思うので
すけれど、「高校の探究の時間が入ったことで非常に成果がある」と。「高校生ではあるけ
れども、その意欲的で積極的な学習態度がその探究の学習で非常に目に見える。進路選択
にもその探究でやったことを生かして進路選択していくような高校生の意識の変化が見え
ている」というそんな話もありました。

それから「この探究の時間があることで、地元や地域への関心も非常に高まってきてい
る」というそんな話がありました。

それにあわせてのことで、学校のあり方に関わる部分です。生徒の減少は当然高校生に
も及んでいくわけですけど、現在、令和6年段階で飯田下伊那1,428名高校生いるそう
ですけど、令和21年になるとこれが今の推計だと866人に減ってしまうと。つまり560人
生徒が減るといった話でした。そうすると学級数も一年生だけの学級数が現在28学級
飯田下伊那であるそうですが、令和21年には19学級、つまり9クラス減ってしまうとい
うようなことが予想されている。そこへ加えて、通信制とか郡外高校へ流出するお子さんが
今現在でも毎年120名ぐらいたそうです。

このまま行くと、この今は静かだけれど飯田下伊那でも高校のあり方をどうするか、上
伊那なんかでは再編が大いに進められていますが、「下伊那においても高校の存続とい
ったことも含めて、非常に大きな問題になっていく」というようなことを高校の校長先生が真
剣に話されていて、「確かに。義務教育だけの話ではない」ということを改めて思いました。

余談です。1学期に飯田高校へ10名の教育実習生が来たそうですが、10名の実習生は実習をただで、教員採用試験を受ける学生は一人もいないということでした。高校の校長先生も、自腹でお菓子等を用意して茶話会を開き、教職の魅力等を伝える機会も持たれたそうですが、「とてもショックだ」と言っていました。教員不足、講師がいないと盛んに言っている状況ですが、ちょっと残念な話を聞いたところです。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

さらに報告ございましたら。

（「ありません」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） ありがとうございます。

何か2人の報告についてご質問ご意見等ありましたら。

（発言する者なし）

○教育長（熊谷邦千加） よろしいでしょうか。

（「はい」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） ありがとうございます。

（2）教育次長報告事項

○教育長（熊谷邦千加） それでは次に教育次長から報告事項がございましたら、お願いいたします。

◎教育次長（秦野高彦） ございません。

（3）学校教育課関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） それでは（3）「学校教育課関係報告事項」。

学校教育専門幹による学校訪問のまとめについて、ご報告を求めます。

北澤学校教育専門幹。

◎学校教育専門幹（北澤孝郎） では、よろしくお願いいたします。

資料No.5、1枚ものでございます。今年度の学校訪問②という第2回目ということになります。

私と三尾教育支援指導主事統括、あと各係の係長さんの3名で市内28校を6月から7月にかけて回らせていただきました。

この四角1から四角7のようなところで懇談をさせていただいたり、あとウェイト的に

はこの四角6番の諸表簿の整理ということで、表簿をきちんと管理しているかという、そんなようなところを確認に行っていました。その中で分かってきたことをざっとまとめさせていただいております。

四角1番のほうはサッとまいりたいと思います。四角1番の1つ目のポツですが、学校の様々な課題に対して、どの学校も前向きに取り組んでいるということで、これは28校共通で学校長をはじめ、皆で力を合わせてやってくれております。

ポツ2つ目、コロナ前のように多くの学校行事が行われるようになってきているが、ただ戻すのではなく慎重に精査して負担の縮減を考えている学校もあるということで、それまでに全く同じに戻すということはしてないというか、やはりきちんと見直ししてというところであります。

続いて四角2番、学力向上、体力向上です。

○教育長（熊谷邦千加） 全部読みますか。

◎学校教育専門幹（北澤孝郎） 分かりました。一応、ポイントを絞りましたが、そうしましたら飛ばしまして、四角3番のいじめ不登校特別支援のところ飛びます。2つ目のポツです。

不登校に関係することですが、完全不登校にならないようにそれぞれの学校でチーム支援をしているってことなんです。今年度中間教室、校内中間教室が設置されている学校から、「昨年度まで登校できなかった児童生徒が中間教室っていうものがあることによって通うことができるようになった」という報告をいただいております。実際に見させていただいて、教育支援指導主事が力になってくれたり、あるいは家庭が力になってくれたり、あるいは校内で職員が協力して部屋の場所を替えてみるというようなことをしたことによって、環境を整えることによって登校できるようになったというお子さんもいるようです。

以下すみません、そこにザッとまとめてはございますが、また読んでいただいて、何かありましたらご意見を頂戴したいと思います。

以上でございます。

○教育長（熊谷邦千加） C4t hのことをちょっと。

◎学校教育専門幹（北澤孝郎） はい、すみません。

四角6番、諸表簿の整理の1つ目のポツであります。今年度新しい校務支援システムC4t hの運用が始まりました。これはパソコンの中にあるソフトを使いまして、職員の出退勤、生徒の出欠等々これを活用して見ていくというものであります。

県内で割と多くの自治体でこれを導入することができてきておりまして、飯田市も本年度から運用開始ということで。

これ自治体ごとこれを取り入れているものですから、赴任した学校によってははないというところもありますが、これに慣れますと多分多くの業務改善等々につながるのではないかと期待しております。

そんなところでございます。よろしく申し上げます。

○教育長（熊谷邦千加） 今の報告について何か発言ご質問ございますか。

10月が教育委員の皆さん方で訪問していただくことの参考にもまたしていただければと思います。よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございます。

じゃあ、続きまして令和6年度全国学力・学習状況調査の速報版について報告を求めます。

北澤学校教育専門幹。

◎学校教育専門幹（北澤孝郎） よろしく申し上げます。

そうしましたら資料No.6という冊子がございますので、ご覧いただければと思います。今年度4月18日に行いました全国学力・学習状況調査の結果速報版でございます。

おめくりいただきまして3ページになります。分析と今後の取組ですが、校長会主導委員会の中の教育問題検討委員会を中心に進めてまいりたいと思います。昨年度から学力調査のない学年もベネッセの総合学力調査を全ての小学校二年生から五年生、そして中学二年生が4月から5月にかけて実施しております。また、リーディングスキルテストを小学校六年生と中学二年生で実施しましたので、それらの結果も含めて検討し、改善に向けた取組になるよう進めてまいる予定です。

4ページをご覧ください。まず小学生のほうの結果でございます。

全国と比較して二重丸・丸・三角で表示をさせていただいております。小学生、国語・算数ともに少しではありますが、全国平均よりも下がっているということで、三角・三角という状況でございます。

続いて5ページをご覧ください。同じように中学校のほうの調査の結果でございます。

国語については丸、数学については三角という状況になっております。グラフ等につきましてもご覧いただければと思っております。

なお、6ページにつきましては、今の中学三年生が小学校六年生のときにどうであった

かっていうことを比較したものです。

表にありますとおり、小学校のときには国語・算数ともに丸・丸でありました。それが中学三年生になりまして国語のほうは丸であります、数学のほうは三角ということで今後、算数・数学についての学習、さらにそれだけではなく、中学校でこの結果を分析してつまづいている生徒、そして伸び悩んでいる生徒にどんな指導をしていくかというところが一つ課題になってまいります。

また、分析、定例教育委員会で提示したいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

以上であります。

○教育長（熊谷邦千加） 全国学力・学習状況調査の報告につきまして、ご発言があればお願いいたします。

野澤教育委員。

◇教育委員（野澤稔弘） 毎回、同様な話をしているような気がするんですけども、いずれにしても、この学力というものが何なのかっていうところに端を発しているようなところもありますし、先ほど一番最後のところの同じ学年というか小六生のときと中三生のときの推移を見てどうだっというような話も出ていますけど、まあ極端な話、小学校のときは別に国語・算数とりあえず無難に平均的にできてたんだけど、中学校になって自我が確立してみんな文学者になりたいと思えば、この成績でもいいですよって話ですよ。

だからやっぱり何を、自分はどういう人間で社会に出ていってどういうことが貢献できるかとか、どんなことをやっていったらいいのか、とかかっていうことが確立された上でこういうことをしないと、みんな文学者になりたければこれでいいじゃないですかって話になってしまうので、そういうところが欠けてるとこういう調査もあまり意味のあるものには見えないなあと、毎回感じてしまいます。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） ありがとうございます。

さらにいかがでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（熊谷邦千加） ご発言がないようでしたら次に進みたいと思いますが、よろしいですか。

（「はい」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） はい。

(4) 生涯学習・スポーツ課関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） では（4）番、「生涯学習・スポーツ課関係報告事項」。

第40回信州飯田60歳以上ソフトボール大会につきましての報告を求めます。

後藤生涯学習・スポーツ課長。

◎生涯学習・スポーツ課長（後藤武志） 資料No.7をご覧ください。第40回信州飯田60歳以上ソフトボール大会でございます。

9月14日・15日の2日間にわたりまして、飯田市内5会場で開催をさせていただくところでございます。今回40回の節目という大会でございますが、全国から49チームが参加して熱戦が繰り広げられることとなっております。

昨年度よりは参加チーム数増えましたけれども、コロナ前が60チームほど参加をいただいておりますので、まだそこまではちょっと達していないという状況でございます。

なお、今回40回ということで、記念のタオルを配ったりとか、あと運動公園の野球場のほう、いい場所で決勝リーグを、決勝リーグというか前回大会の優勝チームが集まってリーグごとの優勝チームが集まって試合をやったりとか、あとひさかた和紙を表彰状に使うなどの取組で今大会を盛り上げていきたいというふうに考えております。

私からの説明は以上です。

○教育長（熊谷邦千加） ちょっとご質問ご意見については、ほかの報告を受けたところでまとめてお願いできればと思います。

(5) 文化財保護活用課関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） それでは続いて（5）「文化財保護活用課関係報告事項」。

秀水美人画美術館第122回常設展「郷土と浅井秀水－飯田下伊那に残る作品－」についての報告をお願いします。

下平文化財保護活用課長。

◎文化財保護活用課長兼考古博物館長（下平博行） お手元にお配りしました秀水美人画美術館だよりをご覧ください。

飯田市考古博物館に併設されています秀水美人画美術館では、9月8日から「郷土と浅井秀水－飯田下伊那に残る作品－」と題する展示を行う予定でございます。

浅井秀水さんは、上郷生まれの美人画を専門にされる方で、その作品は飯田下伊那の学校であったり公共施設に残されています。今回そのうち確認できました上郷小学校、飯田

風越高校、下農、上郷にあります歴史民俗資料館に展示されていましたが作品をお借りしてきまして展示しております。

普段は見ることの少ない展示をいたしますので、機会がありましたらどうぞお越しください。

以上でございます。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

（６）公民館関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 続いて（６）「公民館関係報告事項」。

◎市公民館副館長（上沼昭彦） 本日はございません。

（７）文化会館関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 続きまして（７）「文化会館関係報告事項」。

筒井文化会館館長。

◎文化会館館長兼新文化会館整備室長（筒井文彦） それでは文化会館から「コンサート ア・ラ・カルト」のチラシをお配りしておりますので、少し宣伝をさせていただきます。

9月8日、飯田人形劇場におきまして、このコンサートを行うわけですが、このコンサートは市民の皆さんに身近なところで音楽を感じていただきたいということで、地元で活躍していただいております演奏家の皆さんが次々に出演いただくミニコンサートということになっております。チケット代金も小学生以上500円自由席となっておりますので、ぜひお越しいただければと思います。

追加で申し訳ございません。本日ちょっと、先月もPRをさせていただきました「萩元晴彦ホームタウンコンサート」のチラシとその福川さんのこのピンク色のホッチキス止めのチラシをちょっと追加で配らせていただきました。

コンサートにつきましては、先月PRさせていただきましたけれども、実は福川さんのお父様が飯田出身ということがこのチラシでは書かれておりますので、ぜひこういった方が来ていただけるということで、音楽をされている、特にクラシック音楽に関わっている方からするともう世界が認める天才ホルニストが、実はお父様が飯田出身者だということですので、ぜひこのチラシもご覧いただければと思います。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

(8) 図書館関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） では続きまして（8）番の「図書館関係報告事項」。

瀧本中央図書館館長。

◎中央図書館長（瀧本明子） お願いします。

お手元の黄色いご案内をご覧ください。

図書館では、毎年、伊那谷地名研究会の皆さん共催で地名を学ぶことで地域を知る伊那谷地名講座を行っています。今年は、旧小笠原書院の築400年にあたるということで、小笠原氏と伊豆木の地名を中心に前澤 健先生にお話をいただきます。これが28回目ですが、裏面が9月29日の29回の地名講座のご案内です。

こちらのほうは、講座を聴くという形ではなくて、地名研究会の皆さんにご一緒にご教示いただきながら、自分で自分が知りたい地名を実際に調べてみるという内容で、地域に興味を持ってもらい、実際に自分で調べてみる方を増やすために行います。

それからもう一枚のカラーの「南信州サイエンスクエスト」のほうですけれども、こちらはのご案内の一番下にある参加団体が連携をして「たねの会」という会をつくりまして、この季節にいつも行っているものでございます。

「たねの会」というのは、「この地域の子どもたちに自然科学に興味を持つ種を蒔いて育てていこう」という気持ちでつくられた会です。

裏面のほうに、その会それぞれの施設でどんなことを行うかというご案内がついております。

それぞれの施設、特徴を活かしながら、今年は「生物多様性」をテーマにイベントを行うことになっておりますので、ご案内を申し上げます。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

(9) 美術博物館関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） では続いて（9）「美術博物館関係報告事項」。

榎村美術博物館副館長。

◎美術博物館副館長（榎村洋介） 美術博物館から2点ご案内を行います。

まず一つはオレンジ色の紙です。びはくにゅーす9月号でございます。9月の美術博物館の事業はこのようになっております。

9月は9月16日から9月22日まで春草ウィークとしまして、この間、展示観覧料が無料でございます。美術博物館に来ていただくことで春草を知っていただくという企画でございます。プラネタリウムの中に春草の番組がございますが、その番組の投影と若干の解説を行う予定でございます。

裏面のほうですけれども、いくつか講座が挙げてありますけれども、右上の自然講座ですが、10月12日「信州でクマとどう付き合うか？」ということで、最近クマの出没をニュースで目にすることがあるんですけれども、ツキノワグマの研究会の方をお呼びしてそのようなお話をさせていただくということでございます。

その上ですが、10月6日には「『御用水』って何？」っていうことで、これは城下町を学ぶ講座になっております飯田・城下町サポーターの皆さんがご案内をさせていただくというものですので、こちらのほうもご参加いただければと考えます。

それからもう1点は、春草の生誕150年記念特別展でございます。

こちらにつきましては、8月2日に飯田市の定例記者会見で発表しております、新聞等で報道されております。本日の中日新聞にも載っておりますけれども、春草の生誕150年の展覧会を行います。10月5日から11月4日でございます。今回は画卷の四季山水というものに焦点を当てまして、本館の所蔵する資料の中からその作品の制作の過程を覗いていくという展覧会とさせていただきたいと思っております。

それと同時に、この間の記者会見でも発表させていただきましたけれども、春草のお孫さんから、笹本千草さんという方ですが、春草の資料を今までお預かりしていたものをご寄贈いただくということになりまして、この一部公開も重ねて行う予定でございます。

その資料の内容につきましては、記者会見資料というものがあまして、今回の内容につきましてはそちらをご覧くださいというふうに思います。

以上でございます。

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございました。

(10) 歴史研究所関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 続いて(10)「歴史研究所関係報告事項」。

牧内歴研副所長。

◎歴史研究所副所長（牧内 功） それではお配りしました歴研ニュースの131号をご覧くださいればと思います。

表紙につきましては、先月チラシにて報告しましたので、今回は省略をさせていただきます。

ます。

開いた2ページの上段ですが、飯田アカデミアの104講座につきましてご案内をしております。あわせてアカデミアのチラシのほうを挟ませていただきましたので、そちらの裏面をご覧くださいと思います。講師のプロフィールほか4コマの講座の内容について記載しております。現在、飯田市では、これからの小中学校のあり方について多くの方に関わっていただいて審議していただいておりますが、今後の参考になることがあればと考えておりますので、教育委員の皆様にもお時間があれば関心のある部分だけでもご参加いただければと考えております。

ほかにつきましては、先ほど図書館からもありましたが、旧小笠原家書院が築400年を迎える記念事業に関連しまして歴史研究所で開催します地域史講座は9月14日に開催されます。場所は、旧小笠原家書院を会場にしまして開催する予定でございます。

あとは、ほかのイベント、資料紹介等ありますが、またお時間があるときにご覧いただければと思いますので、よろしく願いいたします。

以上でございます。

○教育長（熊谷邦千加） これまで報告いただいたことにつきまして、ご質問等ご発言がありましたらお願いいたします。

ございませんか。

（「ありません」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） また後ほどご覧いただき、機会があればぜひまたご参加いただければと思います。

全体を通して何か発言し損ねたというようなことがございましたら。

北澤職務代理。

◇教育長職務代理者（北澤正光） 教育委員の学校訪問の日程はいただいてありましたでしょうか。私だけ知らないでいてはいけないと思ひまして。まだまとまってないならそれでいいですけど、去年まででみると9月の末の辺から訪問を開始しているかなと思うのですが、あと一カ月くらいのところから幾日か入るので、分かる範囲で早く教えていただけるとありがたいと思います。

すみません。私だけネットを開き忘れていたか、見落としているかと思っていたので。

○教育長（熊谷邦千加） はい、この後ちょっとお話をさせていただきたいと思ひます。

◇教育長職務代理者（北澤正光） はい。

○教育長（熊谷邦千加） 先ほどできなかった部分もありますので。

ほかはいかがでしょうか。

(発言する者なし)

(11) 今後の日程について

○教育長（熊谷邦千加） それではご発言がないということですので（11）「今後の日程について」、事務局からお願いします。

福澤学校教育課長。

◎学校教育課長（福澤好晃） それでは資料3ページの今後の日程でございます。

先ほど後藤生涯学習・スポーツ課長からございましたが、9月9日第1回総合教育会議。

それから次回の9月の定例会が9月11日ということで、三週間ほどという短い間になりますがよろしくお願ひいたします。また、メール等でやり取りをさせていただきますが、よろしくお願ひいたします。

それから9月18日が飯田市校長会第3回目です。

10月の定例会は、10月16日水曜日を予定しております。

それから年度当初にも計画がございました10月25日金曜日ですが、今年度の第67回長野県市町村教育委員会研修の総会が諏訪で行われる大会でございますが、こちらが予定されておりますので、また詳細につきましてはご連絡をさせていただきます。9時50分からになります。9時半からの受付ですので、8時集合くらいで皆さんと出発できればと考えておりますので、よろしくお願ひいたします。

今後の日程につきましては以上でございます。

○教育長（熊谷邦千加） 日程に対しまして、何かご発言ございますか。

三浦教育委員さん。

◇教育委員（三浦弥生） ウの校長会のほうの出席者は、教育長と職務代理者ということでしょうか。

◎学校教育課長（福澤好晃） はい。

◇教育委員（三浦弥生） はい。

○教育長（熊谷邦千加） はい、9月18日ですね。

野澤教育委員。

◇教育委員（野澤稔弘） すみません、10月25日なんですけど、どうしても出張で都合が付かなくて大変申し訳ないんですけど、欠席させていただきますのでよろしくお願ひいたします。

○教育長（熊谷邦千加） ほかにご発言ございますか。

(発言する者なし)

○教育長（熊谷邦千加） ないようでしたら、次へ進みたいと思います。

日程第10 閉会

○教育長（熊谷邦千加） 日程の第10、「閉会」。

以上をもちまして、本日の日程は全て終了といたしました。

日程第10は特にご発言ございますか。

(「ございません」との声あり)

○教育長（熊谷邦千加） では、教育委員会定例会を閉会といたします。

ご苦勞様でした。

閉 会 16時35分